

2017 年度
調査報告書

スポーツボランティアに関する調査 2018



〔共同研究者〕

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授 工藤 保子
山梨学院大学 現代ビジネス学部 教授 長倉 富貴

目 次

<u>1. 調査の概要</u>	-----	1
<u>2. 調査結果</u>	-----	3
1) スポーツボランティア実施状況-----		3
2) スポーツボランティア活動の内容-----		5
3) スポーツ以外のボランティアの実施状況-----		7
4) ボランティアの実施状況：スポーツとスポーツ以外のボランティアの 関係から-----		9
5) ボランティアをするきっかけとなった活動-----		
6) 最も大切なボランティア活動-----		13
7) ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラ リンピック競技大会のボランティア活動の実施希望状況-----		14 15
8) ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラ リンピック競技大会のボランティア活動の実施希望理由-----		21
9) スポーツボランティア実施希望状況-----		23
10) スポーツボランティア活動経験別にみるスポーツボランティア実施希 望状況-----		25
11) スポーツボランティア実施希望状況_他の調査との比較-----		26
12) 今後希望するスポーツボランティアの活動内容-----		27
13) スポーツボランティアとスポーツ実施、スポーツ観戦との関係-----		29
14) 無自覚的スポーツボランティア実施状況-----		31
15) 無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティア実施状況-----		34
16) スポーツ組織所属者の無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティ ア実施状況-----		35
<u>3. まとめと考察</u>	-----	37
<u>4. 参考文献</u>	-----	40

1. 調査の概要

1) 調査の目的

成人のスポーツボランティア実施状況およびスポーツ以外のボランティアの実施状況に加えて、ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの参加ニーズを明らかにすることを目的とする。

2) 調査方法・対象

調査方法：調査会社の登録モニターを用いたインターネット調査

調査対象：全国の 20 歳代から 60 歳代

性別・年代別を考慮して割付け（回収数：10,000 サンプル）

3) 調査時期

2018 年 3 月

4) 調査項目

(1) スポーツボランティア実施状況

過去 1 年間およびそれ以前の実施状況

(2) スポーツボランティア活動の内容

以下の 3 分類・8 項目について、過去 1 年間およびそれ以前の実施状況と過去 1 年間の実施回数

①日常的な活動：スポーツの指導／スポーツの審判／団体・クラブの運営や世話／
スポーツ施設の管理の手伝い

②地域のスポーツイベント：スポーツの審判／大会・イベントの運営や世話

③全国・国際的スポーツイベント：スポーツの審判／大会・イベントの運営や世話

(3) スポーツ以外のボランティアの実施状況

以下の 11 分類について、過去 1 年間およびそれ以前の実施状況

①健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手、安全な食品を広めることなど）

②高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助けなど）

③障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）

④子どもを対象とした活動（子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）

⑤文化・芸術・学術に関係した活動

（日本古来の文化を広めること、美術館ガイド、講演会・シンポジウム等の開催など）

⑥まちづくりのための活動（道路や公園等の清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）

⑦安全な生活のための活動（防災活動、防犯活動、交通安全運動など）

⑧自然や環境を守るための活動

(野鳥の観察と保護、森林や緑を守る活動、リサイクル運動、ゴミを減らす活動など)

⑨災害に関係した活動 (災害を受けた人に食べものや着るものを送ること、炊き出しなど)

⑩国際協力に関係した活動 (海外支援協力、難民支援、日本にいる外国人への支援活動など)

⑪寺院、神社、宗教に関する活動 (法要や行事の手伝い、布教活動など)

(4) ボランティアのきっかけとなった活動および最も大切なボランティア活動

スポーツとスポーツ以外のボランティア 19 分類について、ボランティアをするきっかけとなった活動と、過去 1 年間に行った活動の中で最も大切な活動

(5) ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティア実施希望状況

各大会の「大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア」と「住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア」の実施希望状況とその希望理由

(6) スポーツボランティアの実施希望状況

今後のスポーツボランティアの実施希望状況と実施を希望する活動内容

(7) スポーツ実施状況とスポーツ観戦状況

過去 1 年間の定期的なスポーツの実施状況および観戦状況とその種目

(8) 所属して活動している地域の団体および現在就いている市町村の特別職

体育協会 (加盟競技団体含む)、スポーツ少年団など

5) 調査の実施体制

以下の 3 者による共同研究として実施した。

工藤 保子 (大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授)

長倉 富貴 (山梨学院大学 現代ビジネス学部 教授)

澁谷 茂樹 (笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主席研究員)

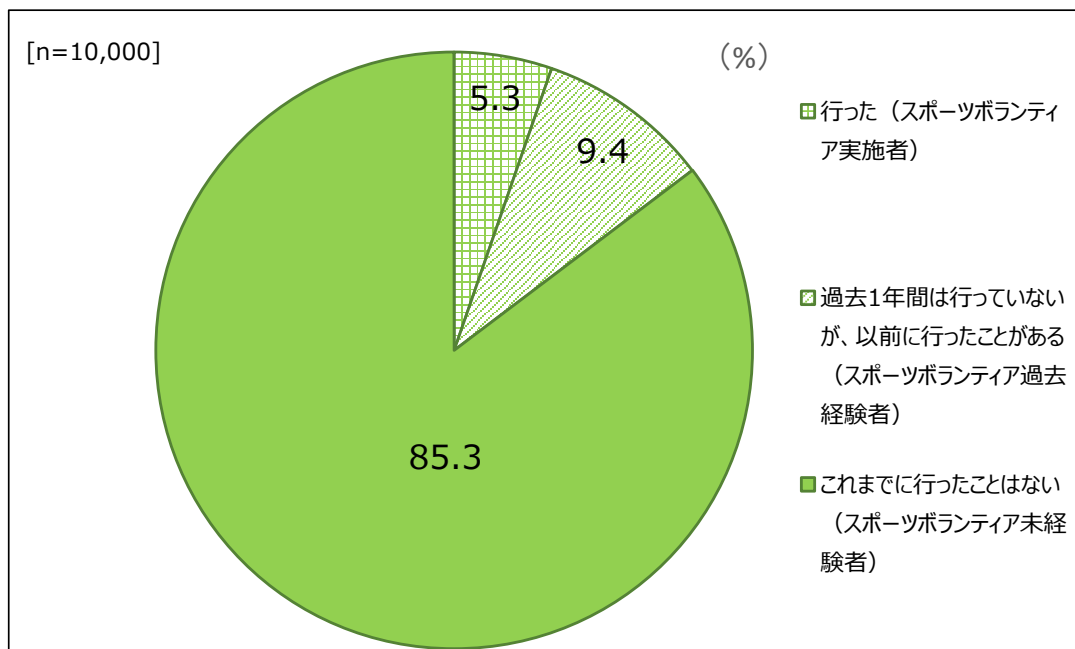
2. 調査結果

1) スポーツボランティア実施状況

過去1年間のスポーツボランティア実施状況についてたずねた。過去1年間にスポーツボランティア活動を「行った」者（スポーツボランティア実施者）は5.3%、「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」者（スポーツボランティア過去経験者）は9.4%、「これまでに行ったことはない」者（スポーツボランティア未経験者）は85.3%であった（図表1）。

図表1 過去1年間のスポーツボランティア実施状況

あなたは、過去1年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行いましたか。（1つ選択）



性別にみると、男性ではスポーツボランティア実施者が 7.1%、スポーツボランティア過去経験者が 11.1%であるのに対し、女性では実施者 3.6%、過去経験者 7.7%となっており、スポーツボランティアの実施者、過去経験者は男性が女性より多い（図表 2）。性・年代別にみると、スポーツボランティア実施者は、男性で 20 代、40 代、女性で 20 代、60 代が多く、スポーツボランティア過去経験者は、男性で 20 代、50 代、60 代、女性で 20 代、60 代が多くなっている。

図表 2 過去 1 年間のスポーツボランティア実施状況（性・年代別）

あなたは、過去 1 年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行いましたか。（1 つ選択）

(%)

	実施者 （スポーツ ボラン ティ ア）	過去 1 年間に 行ったこと がある	これまで 行ったこと はない
全体 (n=10,000)	5.3	9.4	85.3
男性全体 (n=5,020)	7.1	11.1	81.9
男性 20 代 (n=796)	10.9	12.7	76.4
男性 30 代 (n=966)	6.8	8.3	84.9
男性 40 代 (n=1,189)	7.1	9.8	83.0
男性 50 代 (n=956)	5.3	12.0	82.6
男性 60 代 (n=1,113)	5.8	12.9	81.2
女性全体 (n=4,980)	3.6	7.7	88.8
女性 20 代 (n=756)	4.5	8.5	87.0
女性 30 代 (n=937)	3.6	7.0	89.3
女性 40 代 (n=1,162)	3.0	6.6	90.4
女性 50 代 (n=956)	2.5	6.6	90.9
女性 60 代 (n=1,169)	4.4	9.6	86.1

2) スポーツボランティア活動の内容

過去1年間にスポーツボランティア活動を「行った」者（スポーツボランティア実施者）と、「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」者（スポーツボランティア過去経験者）に、具体的な活動内容をたずねた。

スポーツボランティア実施者とスポーツボランティア過去経験者がこれまでに行ったことがある活動で最も多いのは、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」の43.1%で、以下、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」（30.3%）、「【日常的な活動】スポーツの指導」（26.1%）が続く（図表3）。

スポーツボランティア実施者が過去1年間に行った活動では、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」が39.3%で最も多く、以下、「【日常的な活動】スポーツの指導」（29.3%）、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」（25.0%）の順となっている。

過去1年間のスポーツボランティア活動の平均実施回数をみると、最も多いのは、「【日常的な活動】スポーツの指導」の20.5回で、以下、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」（15.7回）、「【日常的な活動】スポーツの審判」（10.1回）が続く。実施者が最も多かった「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」は3.3回、「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」は1.7回であり、スポーツイベントのボランティアは、多くの人にとって、年1～数回の限られた機会であることがわかる。

図表3 スポーツボランティア実施者および過去経験者の活動内容別実施状況

これまでに／過去1年間にあなたが行ったことのあるスポーツボランティア活動は何ですか。（それぞれ複数選択可）

ボランティア活動の内容	スポーツボランティア 過去経験者+実施者	スポーツボランティア実施者	
	これまでに 行ったことがある活動 n=1471	過去1年間に 行った活動 n=532	平均実施回数
【日常的な活動】スポーツの指導	26.1%	29.3%	20.5回
【日常的な活動】スポーツの審判	21.7%	17.9%	10.1回
【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話	30.3%	25.0%	15.7回
【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い	25.3%	18.6%	5.8回
【地域のスポーツイベント】スポーツの審判	15.5%	12.2%	5.9回
【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話	43.1%	39.3%	3.3回
【全国・国際的スポーツイベント】スポーツの審判	3.1%	1.7%	5.2回
【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話	16.0%	13.3%	1.7回
その他	1.6%	1.1%	6.3回

スポーツボランティア実施者とスポーツボランティア過去経験者がこれまでに行ったことがある活動を性別にみると、「【日常的な活動】スポーツの指導」、「【日常的な活動】スポーツの審判」、「【地域のスポーツイベント】スポーツの審判」において、男性の割合が女性の2倍以上となっている（図表4）。一方、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」では、男性38.9%に対して女性50.0%と女性の割合が大きく、活動内容により実施経験に男女差がみられる。

性・年代別にみると、男性では、「【日常的な活動】スポーツの指導」は20代、30代が多く、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」と「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」は、40代～60代が多かった。また、女性では、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」と「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」において、50代、60代の活動経験者が多くなっている。

図表4 スポーツボランティア実施者および経験者の活動内容別実施状況
(これまでに行ったことがある活動：性・年代別)

これまで／過去1年間にあなたが行ったことのあるスポーツボランティア活動は何ですか。（それぞれ複数選択可）

	の「日常的な活動」スポーツ指導	の「日常的な活動」スポーツ審判	の「日常的な活動」スポーツ団体・クラブの運営や世話	施設の「日常的な活動」スポーツ管理の活動	ト「地域のスポーツイベント」の審判	やト「地域のスポーツイベント」の運営や世話	ベ「全国・国際的なスポーツイベント」の審判	運ベ「全国・国際的なスポーツイベント」の運営や世話	その他
全体(n=1,471)	26.1	21.7	30.3	25.3	15.5	43.1	3.1	16.0	1.6
男性(n=911)	33.7	28.5	30.4	25.2	20.1	38.9	3.8	14.7	1.2
男性20代(n=188)	36.7	29.3	24.5	25.0	25.0	27.7	6.4	12.8	2.1
男性30代(n=146)	37.7	24.0	24.0	27.4	13.0	29.5	4.8	14.4	1.4
男性40代(n=202)	30.7	28.2	33.7	28.7	16.3	46.5	2.5	17.8	1.0
男性50代(n=166)	33.1	33.7	35.5	24.7	22.3	41.0	3.0	15.7	0.6
男性60代(n=209)	31.6	27.3	33.0	21.1	22.5	46.4	2.9	12.9	1.0
女性(n=560)	13.8	10.5	30.2	25.4	8.0	50.0	2.0	18.2	2.1
女性20代(n=98)	22.4	21.4	18.4	19.4	10.2	37.8	3.1	13.3	0.0
女性30代(n=100)	16.0	8.0	23.0	29.0	6.0	41.0	1.0	20.0	2.0
女性40代(n=112)	10.7	8.0	30.4	25.9	4.5	47.3	0.0	23.2	3.6
女性50代(n=87)	12.6	11.5	41.4	29.9	16.1	60.9	4.6	23.0	1.1
女性60代(n=163)	9.8	6.7	35.6	23.9	6.1	58.9	1.8	14.1	3.1

3) スポーツ以外のボランティアの実施状況

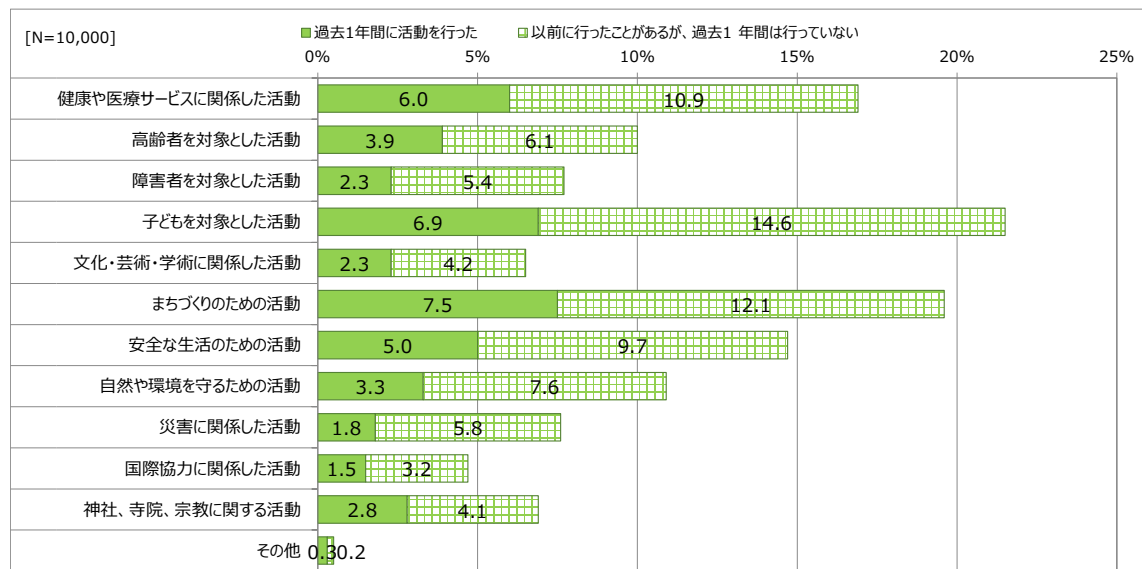
過去1年間のスポーツ以外のボランティア活動の有無について、活動内容別にたずねた。活動分類は、総務省「社会生活基本調査」の調査票の10項目をもとに、その一つである「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」からスポーツを除き、「文化・芸術・学術に関係した活動」に変更したほか、「寺院・神社・宗教に関する活動」を加えた11項目とした。

過去1年間に行った活動で最も多いのは、「まちづくりのための活動」の7.5%で、以下、「子どもを対象とした活動」(6.9%)、「健康や医療サービスに関係した活動」(6.0%)、「安全な生活のための活動」(5.0%)、「高齢者を対象とした活動」(3.9%)などの順となっている(図表5)。2016年の社会生活基本調査(10歳以上が対象)では、「まちづくりのための活動」(11.3%)、「子どもを対象とした活動」(8.4%)、「安全な生活のための活動」(5.0%)、「自然や環境を守るための活動」(4.0%)、「高齢者を対象とした活動」(3.8%)が上位であり、今回の調査に比べ、「まちづくりのための活動」の実施率が高い他、上位の内容に若干の違いがみられる。

スポーツ以外のボランティア活動を、「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」と回答したボランティア過去経験者についてみると、最も多いのは「子どもを対象とした活動」(14.6%)で、以下、「まちづくりのための活動」(12.1%)、「健康や医療サービスに関係した活動」(10.9%)などが続く。

図表5 スポーツ以外のボランティア活動の実施状況

あなたは、過去1年間に、以下に示すスポーツ以外のボランティア活動を行いましたか。(それぞれ1つずつ選択)



スポーツ以外のボランティア活動の実施状況を性別にみると、過去 1 年間に行った活動では、「子どもを対象とした活動」と「高齢者を対象とした活動」を除いて、男性の割合が女性よりも大きい（図表 6）。「子どもを対象とした活動」について、実施者と過去経験者を合わせた割合をみると、男性 17.8%に対し、女性 25.1%となっている。保護者の立場で、男性に比べて多くの女性が子どもに関するボランティア活動をしていると推察される。

性・年代別にみると、男性では、「健康や医療サービスに関係した活動」、「高齢者を対象とした活動」、「障害者を対象とした活動」は 20 代が多く、「まちづくりのための活動」、「安全な生活のための活動」は 50 代、60 代が多くなっている。女性では、「高齢者を対象とした活動」と「まちづくりのための活動」は 60 代が特に多い。また、「子どもを対象とした活動」をみると、過去 1 年間の実施者は 30 代、40 代で多く、実施者と過去経験者を合わせた活動経験者は、30 代 19.2%、40 代 25.8%、50 代 28.6%、60 代 32.9%と、年代が上がるにつれて多くなっている。

図表 6 スポーツ以外のボランティア活動の実施状況（性・年代別）

あなたは、過去 1 年間に、以下に示すスポーツ以外のボランティア活動を行いましたか。（それぞれ 1 つずつ選択）
(%)

活動内容	健康や医療サービスに関係した活動		高齢者を対象とした活動		障害者を対象とした活動		子どもを対象とした活動		文化・芸術・学術に関係した活動		まちづくりのための活動	
実施状況	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった
全体 (n=10,000)	6.0	10.9	3.9	6.1	2.3	5.4	6.9	14.6	2.3	4.2	7.5	12.1
男性全体 (n=5,020)	7.4	10.6	3.8	5.6	2.6	5.0	6.2	11.6	2.6	4.2	8.5	12.2
男性20代 (n=796)	10.2	10.9	4.8	8.2	4.4	7.2	7.0	8.7	3.6	5.8	6.3	14.7
男性30代 (n=966)	9.7	7.6	4.3	5.0	3.0	4.7	5.1	7.8	2.4	3.9	6.2	8.4
男性40代 (n=1,189)	7.0	10.4	3.7	5.1	2.1	5.2	6.9	9.0	2.9	3.2	7.1	9.9
男性50代 (n=956)	7.2	11.7	2.4	5.0	2.2	5.0	5.3	15.7	1.7	4.3	9.2	11.6
男性60代 (n=1,113)	4.0	12.0	4.0	5.1	2.1	3.7	6.5	16.4	2.4	4.2	12.8	16.4
女性全体 (n=4,980)	4.5	11.1	4.0	6.7	1.9	5.8	7.5	17.6	2.1	4.1	6.5	12.1
女性20代 (n=756)	6.7	9.7	2.4	9.7	1.6	7.7	3.7	11.5	3.0	5.2	3.8	14.7
女性30代 (n=937)	4.2	13.4	2.8	7.2	1.7	7.3	9.2	10.0	1.4	3.0	4.6	10.1
女性40代 (n=1,162)	4.0	10.2	2.0	4.0	1.4	4.0	11.4	14.4	0.9	3.4	5.6	10.1
女性50代 (n=956)	4.0	13.0	4.5	5.2	1.5	4.5	4.8	23.8	2.6	4.3	6.2	13.2
女性60代 (n=1,169)	4.4	9.8	7.6	8.2	3.3	6.2	7.1	25.8	2.9	5.0	11.1	13.3

活動内容	安全な生活のための活動		自然や環境を守るための活動		災害に関係した活動		国際協力に関係した活動		神社、寺院、宗教に関する活動		その他	
実施状況	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった	行った	行ったが、以前に比べて、1年未満の間はあった
全体 (n=10,000)	5.0	9.7	3.3	7.6	1.8	5.8	1.5	3.2	2.8	4.1	0.3	0.2
男性全体 (n=5,020)	6.0	10.0	3.8	8.2	2.4	6.0	1.7	3.2	3.1	4.5	0.2	0.2
男性20代 (n=796)	5.3	7.3	4.3	9.3	2.9	6.0	2.9	4.5	3.5	4.0	0.1	0.3
男性30代 (n=966)	4.5	5.6	3.0	6.7	2.3	5.4	1.6	3.0	2.0	4.2	-	-
男性40代 (n=1,189)	5.0	8.2	3.6	6.9	2.4	5.2	1.7	2.7	2.9	4.4	0.2	0.2
男性50代 (n=956)	6.1	12.7	4.0	7.5	2.0	6.5	1.2	2.8	2.1	4.5	0.2	0.2
男性60代 (n=1,113)	8.7	15.3	4.3	10.9	2.6	6.7	1.3	3.1	4.9	5.3	0.4	0.3
女性全体 (n=4,980)	4.1	9.5	2.7	7.0	1.2	5.7	1.3	3.3	2.4	3.7	0.4	0.2
女性20代 (n=756)	2.0	6.3	1.9	7.8	0.8	4.8	1.2	4.5	1.9	4.0	-	0.4
女性30代 (n=937)	3.1	4.1	1.5	5.1	0.9	3.5	1.1	3.1	1.7	3.1	0.3	0.1
女性40代 (n=1,162)	4.4	7.8	1.6	5.3	0.9	5.1	1.0	2.3	2.2	2.6	0.2	-
女性50代 (n=956)	3.9	14.2	3.5	7.4	1.6	7.0	1.2	3.5	3.2	4.3	0.6	-
女性60代 (n=1,169)	6.2	13.7	4.7	9.2	1.8	7.6	2.1	3.3	3.0	4.8	0.7	0.3

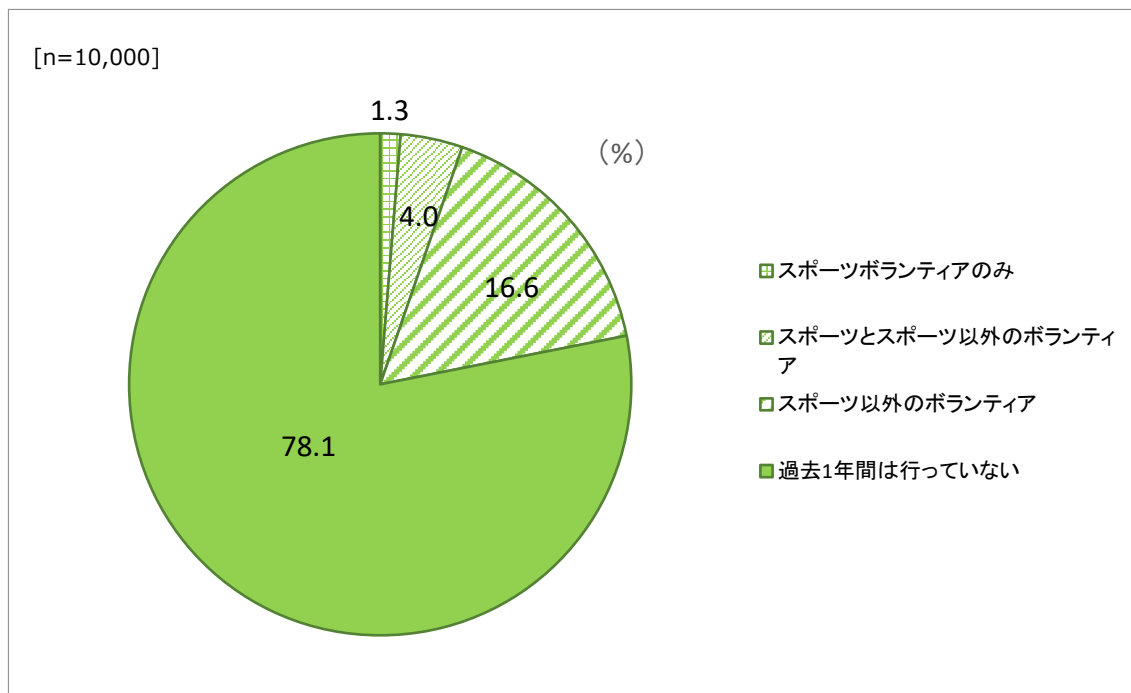
4) ボランティアの実施状況：スポーツとスポーツ以外のボランティアの関係から

ボランティアの実施状況について、スポーツボランティア実施者、スポーツ以外のボランティア実施者とそれぞれの重複実施者の割合をみた。

(1) 過去1年間のボランティア実施状況

過去1年間のボランティア実施状況についてみると、「スポーツ以外のボランティアを実施」が16.6%、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」が4.0%、「スポーツボランティアのみ実施」1.3%であった（図表7）。スポーツボランティア実施者の多くが、スポーツ以外のボランティアと「掛け持ち」して活動していることがわかる。

図表7 過去1年間のボランティア実施状況：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア



過去 1 年間のボランティア実施状況を性別にみると、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は男性の割合が大きく、「スポーツ以外のボランティアを実施」は女性の割合が大きい（図表 8）。性・年代別にみると、男性では、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は 20 代が多く、「スポーツ以外のボランティアを実施」は 60 代が多くなっている。女性では、「スポーツボランティアのみ実施」は 20 代が多く、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」と「スポーツ以外のボランティアを実施」は 60 代が多くなっている。

図表 8 過去 1 年間のボランティア実施状況：

スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア（性・年代別）

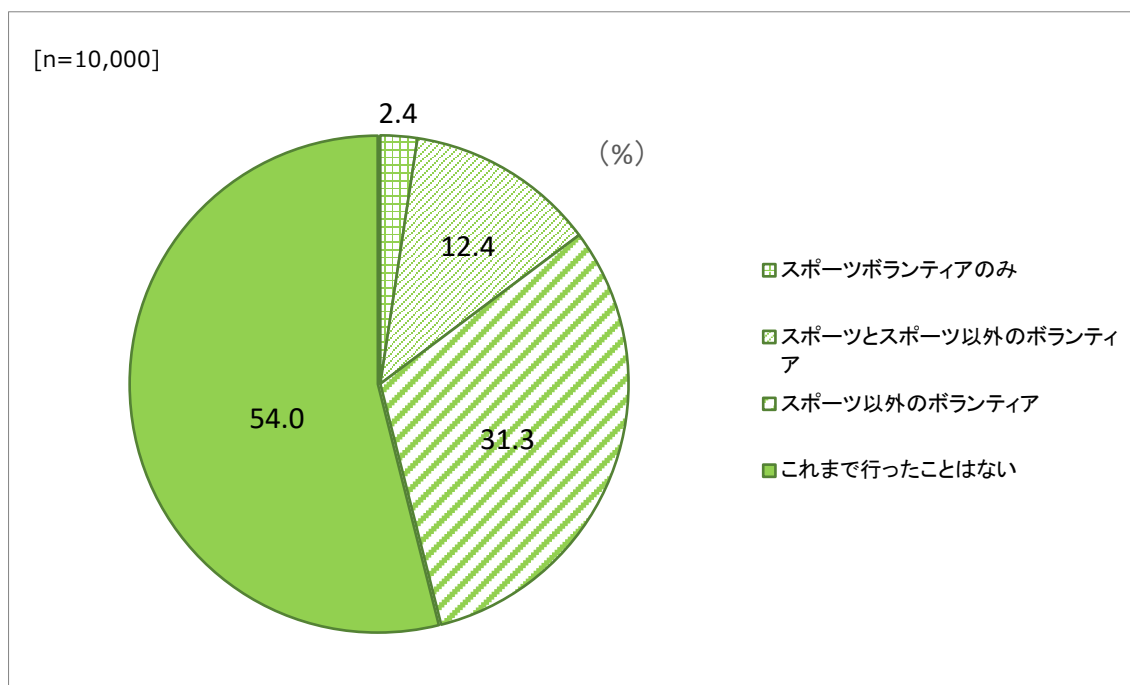
(%)

	テ ス ポ ー ツ の ボ ラ ン テ ィ ア の み ボ ラ ン	ラ ポ ス ン ー ポ ー ツ の ボ ラ ン テ ィ ア と ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア	ボ ス ラ ポ ン ー ポ ー ツ の ボ ラ ン テ ィ ア と ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア	行 過 つ 去 て 1 い 年 な 間 は
全体(n=10,000)	1.3	4.0	16.6	78.1
男性全体(n=5,020)	1.7	5.4	15.7	77.3
男性20代(n=796)	2.4	8.5	13.3	75.8
男性30代(n=966)	1.0	5.8	13.1	80.0
男性40代(n=1,189)	2.3	4.9	15.5	77.4
男性50代(n=956)	1.3	4.1	14.9	79.8
男性60代(n=1,113)	1.5	4.3	20.4	73.8
女性全体(n=4,980)	0.9	2.6	17.6	78.8
女性20代(n=756)	1.7	2.8	12.6	82.9
女性30代(n=937)	0.9	2.8	14.6	81.8
女性40代(n=1,162)	0.7	2.3	18.3	78.7
女性50代(n=956)	0.2	2.3	16.9	80.5
女性60代(n=1,169)	1.4	3.0	23.1	72.5

(2) これまでのボランティア実施経験

過去 1 年間のボランティアに限定せずに、過去 1 年の実施を含めたこれまでのボランティア実施経験についてみると、「スポーツ以外のボランティアを実施」が 31.3%、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」が 12.4%、「スポーツボランティアのみ実施」2.4%であった（図表 9）。スポーツボランティア経験者の 8 割以上にスポーツ以外のボランティアの経験がある。一方で、これまでにボランティアをまったく実施したことがない未経験者の割合は 54.0%となっており、半数近い成人にスポーツを含む何らかのボランティア経験があることがわかる。

図表 9 これまでのボランティア実施経験：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア



過去1年の実施を含めたこれまでのボランティア実施経験を性別にみると、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は男性の割合が大きく、「スポーツ以外のボランティアを実施」は女性の割合が大きい（図表10）。特に、「スポーツ以外のボランティアを実施」は男性26.3%に対し、女性36.4%と約10ポイント女性の割合が大きくなっている。性・年代別にみると、男性では、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は20代が多く、「スポーツ以外のボランティアを実施」は年代が上がるにつれて多くなっている。女性では、「スポーツボランティアのみ実施」は20代が多く、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は20代と60代が多い一方、「スポーツ以外のボランティアを実施」は年代が上がるにつれて多くなっている。

図表10 これまでのボランティア実施経験：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア（性・年代別）
（%）

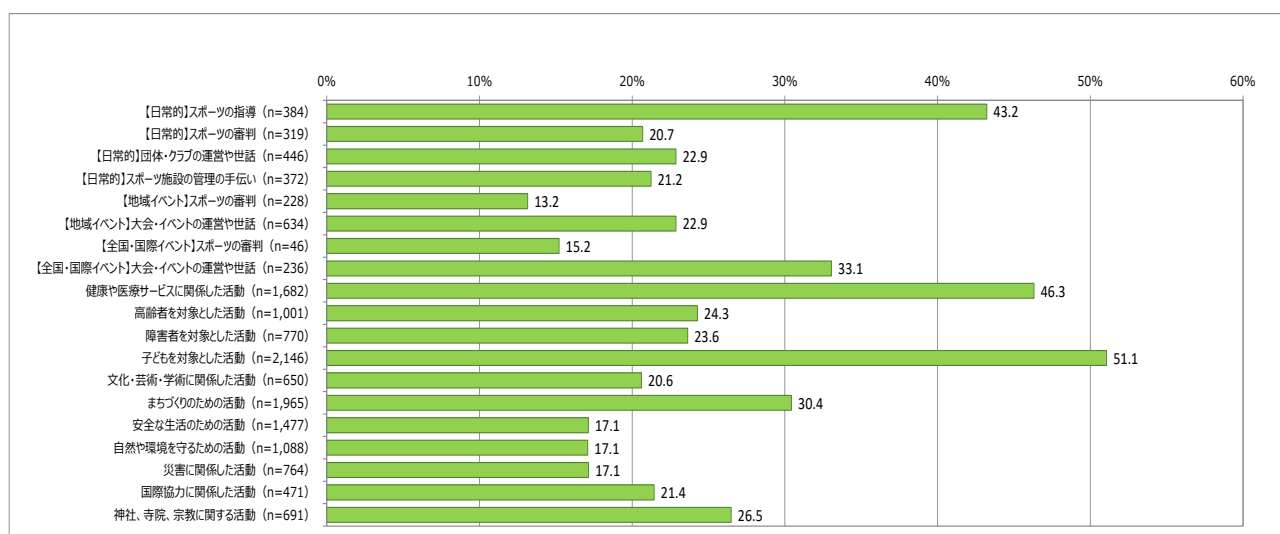
	ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア の み ボ ラ ン	ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア と ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア	ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア	こ こ と れ は ま で い っ た
全体(n=10,000)	2.4	12.4	31.3	54.0
男性全体(n=5,020)	2.9	15.3	26.3	55.6
男性20代(n=796)	4.4	19.2	21.2	55.2
男性30代(n=966)	2.6	12.5	20.7	64.2
男性40代(n=1,189)	3.2	13.8	24.3	58.7
男性50代(n=956)	2.2	15.2	29.3	53.3
男性60代(n=1,113)	2.3	16.4	34.1	47.1
女性全体(n=4,980)	1.8	9.4	36.4	52.4
女性20代(n=756)	2.9	10.1	28.8	58.2
女性30代(n=937)	2.2	8.4	31.6	57.7
女性40代(n=1,162)	1.5	8.1	33.9	56.5
女性50代(n=956)	0.4	8.7	41.8	49.1
女性60代(n=1,169)	2.1	11.8	43.1	42.9

5) ボランティアをするきっかけとなった活動

スポーツボランティアやその他のボランティアの実施者および過去経験者に対し、「ボランティアをするきっかけとなった活動」についてたずねた。活動に参加した者の総数に対して「きっかけになった」と回答した者の割合をみると、最も多かったのは「子どもを対象とした活動」の51.1%で、次いで「健康や医療サービスに関係した活動」(46.3%)、「【日常的な活動】スポーツの指導」(43.2%)であった(図表11)。

図表 11 ボランティアをするきっかけとなった活動

スポーツボランティアやその他のボランティアについて、あなたがボランティアをするきっかけとなった活動はどれですか。(1つ選択)

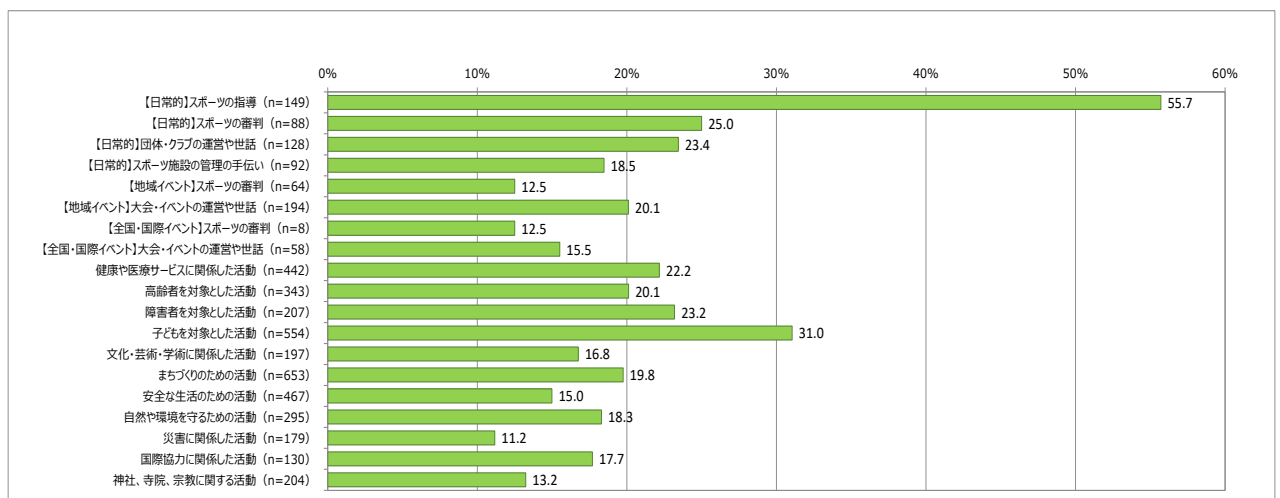


6) 最も大切なボランティア活動

スポーツボランティアやその他のボランティアの実施者に対し、「現在最も大切なボランティア活動」についてたずねた。「【日常的な活動】スポーツの指導」が55.7%と最も多く、次いで、「子どもを対象とした活動」(31.0%)、「【日常的な活動】スポーツの審判」(25.0%)であった(図表12)。前掲の図表3において実施率が高かった「まちづくりのための活動」、「健康や医療サービスに関係した活動」、「安全な生活のための活動」を「最も大切な活動」として挙げている回答者は15~20%程度にとどまっているのに対し、「スポーツの指導」が突出していることがわかる。「スポーツの指導」の平均実施回数は20.7回と頻度も高く、日常的に使命感や責任感をもって指導にあたっているスポーツボランティアが多いと考えられる。「スポーツの審判」については【全国・国際的イベント】と【地域のイベント】の審判がともに12.5%と低い値を示しているが、【日常的な活動】の審判は25.0%と高いことから、スポーツボランティアの機会の少なさが影響していると考ええる。

図表12 最も大切なボランティア活動

スポーツボランティアやその他のボランティアについて、現在あなたにとって最も大切な活動はどれですか。(1つ選択)



注) 2種類以上の活動を行った者に絞って集計した。

7) ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティア活動の実施希望状況

2019 年に開催されるラグビーワールドカップや、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、競技大会の開催地だけでなく、大会の事前合宿などを含めて、全国各地に海外から多くの選手や大会関係者が訪れ、それに伴い、多くのボランティアが活躍することが期待されている。これらの大会での、ボランティア活動の希望についてたずねた。

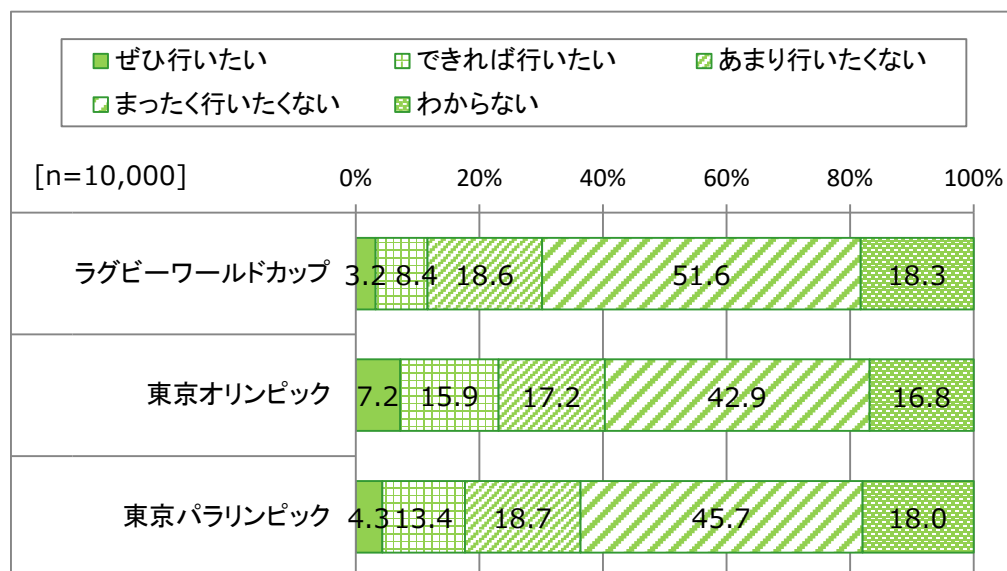
(1) 大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア

大会期間中の競技会場や周辺でのボランティアについてたずねたところ、「ぜひ行いたい」と回答した者は、東京オリンピックが 7.2%と最も多く、次いで、東京パラリンピックの 4.3%、ラグビーワールドカップの 3.2%の順であった(図表 13)。また、「行いたい(「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい)」と回答した者の割合をみると、東京オリンピックで 23.1%、東京パラリンピックで 17.7%、ラグビーワールドカップで 11.6%であった。一方、活動を希望しない者も、東京オリンピック・パラリンピックで 6 割、ラグビーワールドカップで 7 割いることも確認できた。

図表 13 ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティア活動の実施希望状況

【大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア】

あなたは、これらの大会で、ボランティア活動を行いたいと思いますか。(それぞれ 1 つずつ選択)



性別にみると、男女ともに東京オリンピックが最も多く、男性で 23.4%、女性で 22.9%。次いで東京パラリンピックの男性 16.8%、女性 18.5%。ラグビーワールドカップは男性で 14.0%、女性では 1 割に満たない 9.1%であった（図表 14,15,16）。全体の傾向をみると、東京オリンピックとラグビーワールドカップでは男性の希望者が、東京パラリンピックでは男性よりも女性の希望者が多いことがわかる。性・年代別にみると、「行きたい」者の割合は、男女ともにどの大会でも 20 代が最も多く、次いで 30 代、3 番目に希望者が多いのが、男性では東京オリンピック、ラグビーワールドカップでは、50 代、東京パラリンピック 40 代であった。女性では、どの大会でも 60 代であった。

図表 14 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動の実施希望状況

【大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア】（性・年代別）

(%)

	ぜ ひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く な い	ま っ た く 行 い た く な い	わ か ら な い
全体 (n=10,000)	3.2	8.4	18.6	51.6	18.3
男性全体 (n=5,020)	4.1	9.9	18.3	50.7	16.9
男性20代 (n=796)	8.5	10.8	17.6	41.2	21.9
男性30代 (n=966)	4.9	10.6	16.6	49.5	18.5
男性40代 (n=1,189)	3.4	8.5	20.0	51.6	16.4
男性50代 (n=956)	2.9	11.0	17.1	52.9	16.1
男性60代 (n=1,113)	2.2	9.3	19.7	55.6	13.2
女性全体 (n=4,980)	2.2	6.9	18.8	52.5	19.6
女性20代 (n=756)	3.7	8.3	17.6	48.1	22.2
女性30代 (n=937)	3.0	6.7	17.2	53.0	20.1
女性40代 (n=1,162)	1.8	6.5	18.1	52.8	20.9
女性50代 (n=956)	1.3	6.4	18.6	54.2	19.6
女性60代 (n=1,169)	1.7	6.9	21.9	53.1	16.3

図表 15 2020 年東京オリンピックのボランティア活動の実施希望状況

【大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア】(性・年代別)

(%)

	ぜひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く ない	ま っ た く 行 い た く ない	わ か ら ない
全体(n=10,000)	7.2	15.9	17.2	42.9	16.8
男性全体(n=5,020)	8.0	15.4	17.3	43.4	16.0
男性20代(n=796)	11.4	17.7	15.5	35.9	19.5
男性30代(n=966)	9.2	14.4	16.1	43.8	16.5
男性40代(n=1,189)	7.3	15.2	17.6	44.2	15.7
男性50代(n=956)	7.2	16.3	16.7	43.8	15.9
男性60代(n=1,113)	5.8	14.0	19.6	47.2	13.5
女性全体(n=4,980)	6.5	16.4	17.1	42.4	17.6
女性20代(n=756)	8.2	17.6	14.8	40.7	18.7
女性30代(n=937)	8.2	15.8	14.5	42.7	18.8
女性40代(n=1,162)	6.3	14.4	17.1	44.1	18.2
女性50代(n=956)	5.3	16.9	18.0	40.6	19.1
女性60代(n=1,169)	5.1	17.9	19.9	43.1	13.9

図表 16 2020 年東京パラリンピックのボランティア活動の実施希望状況

【大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア】(性・年代別)

(%)

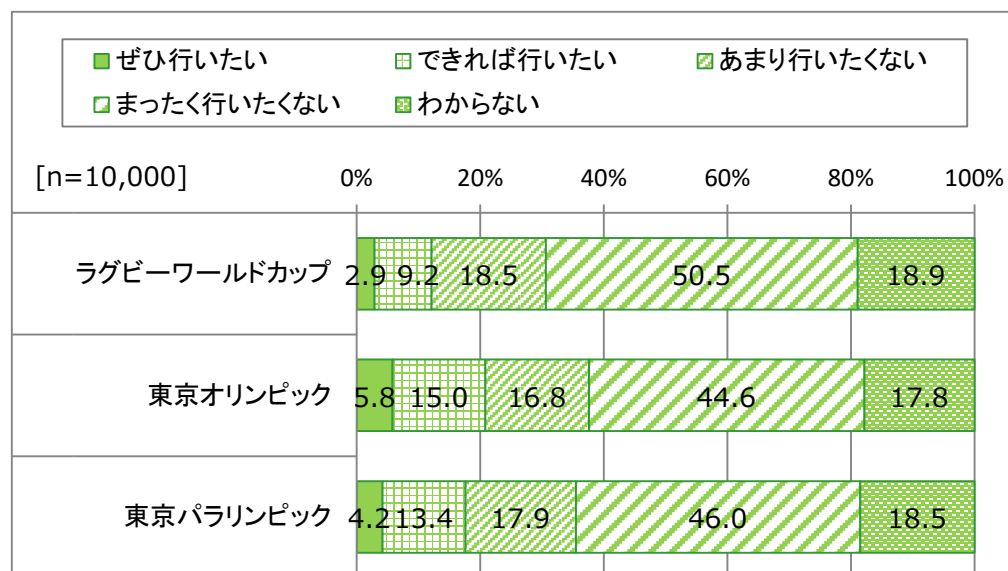
	ぜひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く ない	ま っ た く 行 い た く ない	わ か ら ない
全体(n=10,000)	4.3	13.4	18.7	45.7	18.0
男性全体(n=5,020)	4.3	12.5	19.1	46.8	17.2
男性20代(n=796)	8.3	13.9	18.6	38.4	20.7
男性30代(n=966)	4.6	13.4	16.5	47.5	18.1
男性40代(n=1,189)	3.8	12.6	19.8	47.3	16.5
男性50代(n=956)	3.7	10.8	19.7	48.6	17.3
男性60代(n=1,113)	2.5	12.1	20.6	50.2	14.6
女性全体(n=4,980)	4.2	14.3	18.3	44.5	18.8
女性20代(n=756)	5.0	14.8	17.2	42.9	20.1
女性30代(n=937)	4.6	14.7	15.5	44.7	20.5
女性40代(n=1,162)	4.5	12.7	17.5	46.3	19.1
女性50代(n=956)	3.0	14.1	18.7	44.1	20.0
女性60代(n=1,169)	3.8	15.5	21.6	43.8	15.2

(2) 住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア

住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティアについてたずねたところ、活動を希望する（「行いたい」）者は、東京オリンピックで 20.8%、東京パラリンピックで 17.6%、ラグビーワールドカップで 12.1%であった（図表 17）。前述の「(1) 大会期間中」の結果と比較すると、東京オリンピックで 2.3 ポイント、ラグビーワールドカップで 0.5 ポイント低い。

図表 17 ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティア活動の実施希望状況
【住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア】

あなたは、これらの大会で、ボランティア活動を行いたいと思いますか。（それぞれ 1 つずつ選択）



性別にみると、男女ともに東京オリンピックが最も高く、男性で 20.4%、女性で 21.2%。次いで東京パラリンピックの男性 16.5%、女性 18.6%。ラグビーワールドカップは男性で 13.6%、女性で 10.6%であった（図表 18,19,20）。全体の傾向をみると、ラグビーワールドカップでは男性の希望者が女性よりも多いものの、東京オリンピックとパラリンピックは男性よりも女性の希望者が多かった。性・年代別にみると、「行いたい」者の割合は、男性はどの大会でも 20 代が最も多く、次いで東京パラリンピックとラグビーワールドカップでは 30 代、東京オリンピックでは 40 代の希望者が多かった。一方、女性は東京オリンピックとラグビーワールドカップでは、20 代の希望者が最も多いが、東京パラリンピックは 60 代が最も希望者が多かった。住むまちやその近隣での活動については、20 代や 30 代の女性に加えて、60 代の女性の活動希望が一定程度あることが確認できた。

図表 18 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動の実施希望状況
【住むまちやその近隣を訪れる代表チームの事前合宿のボランティア】 (%)

	ぜ ひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く な い	ま っ た く 行 い た く な い	わ か ら な い
全体 (n=10,000)	2.9	9.2	18.5	50.5	18.9
男性全体 (n=5,020)	3.5	10.1	18.7	50.0	17.6
男性20代 (n=796)	7.4	11.7	18.2	40.5	22.2
男性30代 (n=966)	4.0	11.1	16.8	49.7	18.4
男性40代 (n=1,189)	3.2	8.5	20.4	50.6	17.2
男性50代 (n=956)	2.5	9.9	17.9	52.4	17.3
男性60代 (n=1,113)	1.3	10.2	19.8	54.5	14.2
女性全体 (n=4,980)	2.3	8.3	18.2	50.9	20.3
女性20代 (n=756)	3.4	9.9	16.3	47.8	22.6
女性30代 (n=937)	2.6	8.0	16.6	52.3	20.5
女性40代 (n=1,162)	2.1	7.9	17.0	51.8	21.2
女性50代 (n=956)	2.0	7.5	18.9	50.7	20.8
女性60代 (n=1,169)	2.1	8.5	21.0	51.2	17.3

図表 19 2020 年東京オリンピックのボランティア活動の実施希望状況

【住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア】 (%)

	ぜ ひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く ない	ま っ た く 行 い た く ない	わ か ら ない
全体 (n=10,000)	5.8	15.0	16.8	44.6	17.8
男性全体 (n=5,020)	6.1	14.3	17.3	45.4	16.9
男性20代 (n=796)	10.2	15.3	16.7	37.3	20.5
男性30代 (n=966)	7.0	12.4	16.5	46.9	17.2
男性40代 (n=1,189)	6.2	14.5	17.2	45.5	16.6
男性50代 (n=956)	4.5	14.6	16.7	47.0	17.2
男性60代 (n=1,113)	3.7	14.6	19.0	48.6	14.2
女性全体 (n=4,980)	5.4	15.8	16.3	43.7	18.7
女性20代 (n=756)	6.6	15.9	14.8	42.5	20.2
女性30代 (n=937)	6.0	15.9	14.2	44.0	20.0
女性40代 (n=1,162)	5.4	14.3	15.8	45.0	19.4
女性50代 (n=956)	5.1	15.2	17.6	42.6	19.6
女性60代 (n=1,169)	4.4	17.8	18.6	43.9	15.4

図表 20 2020 年東京パラリンピックのボランティア活動の実施希望状況

【住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア】 (%)

	ぜ ひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く ない	ま っ た く 行 い た く ない	わ か ら ない
全体 (n=10,000)	4.2	13.4	17.9	46.0	18.5
男性全体 (n=5,020)	4.2	12.3	18.5	47.4	17.6
男性20代 (n=796)	8.3	13.6	17.8	39.3	21.0
男性30代 (n=966)	4.6	12.1	17.0	48.3	18.0
男性40代 (n=1,189)	4.2	12.2	19.2	47.7	16.7
男性50代 (n=956)	2.6	11.4	18.0	49.8	18.2
男性60代 (n=1,113)	2.2	12.3	20.1	50.0	15.4
女性全体 (n=4,980)	4.2	14.4	17.2	44.7	19.5
女性20代 (n=756)	5.3	14.0	16.1	43.1	21.4
女性30代 (n=937)	4.5	14.5	15.6	44.4	21.0
女性40代 (n=1,162)	4.2	13.0	16.2	46.6	20.0
女性50代 (n=956)	3.8	14.1	18.3	44.1	19.7
女性60代 (n=1,169)	3.7	16.3	19.4	44.3	16.3

8) ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティア活動の実施希望理由

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックのボランティアを「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」と回答した者に、その理由をたずねた。

(1) 大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア

大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア活動を希望する理由としては、「日本で開催されるから」が最も多く、東京オリンピック 39.8%、東京パラリンピック 39.5%、ラグビーワールドカップ 25.8%であった（図表 21）。日本で開催されることへの特別感、ラグビーワールドカップより、東京オリンピック・パラリンピックで期待されていることがわかる。2 番目の理由は「スポーツが好きだから」で、ラグビーワールドカップでの活動を希望する者が 25.2%と最も多く、次いで東京オリンピック 17.7%、東京パラリンピック 15.9%の順であった。ラグビーワールドカップでのボランティア活動を希望している者は、東京オリンピックやパラリンピックの活動希望者より、スポーツが好きな者の割合が多い特徴がみられた。3 番目は「選手のプレーをそばで見たいから」で、ラグビーワールドカップで 18.1%と最も多く、次いで東京オリンピック 16.2%、東京パラリンピック 13.5%であった。また、活動を希望する理由の上位 4 番目に「人の役に立ちたいから」があるが、東京パラリンピックでのみ 1 割を超えて 10.1%であった。一方、活動を希望する理由として低い割合の項目は「語学を活かしたいから」と「人とふれあいたいから」で、いずれの大会でも少なかった。

図表 21 ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティア活動の実施希望理由

【大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア】

あなたがボランティアを行いたい理由をお答えください。（それぞれ 1 つずつ選択）

	ラグビーワールドカップ n=1,158	東京オリンピック n=2,315	東京パラリンピック n=1,766
スポーツが好きだから	25.2%	17.7%	15.9%
選手のプレーをそばで見たいから	18.1%	16.2%	13.5%
日本で開催されるから	25.8%	39.8%	39.5%
住むまちやその近隣で開催されるから	6.8%	3.9%	4.1%
地域に貢献したいから	6.2%	4.4%	5.5%
国際交流したいから	5.3%	6.4%	5.6%
語学を活かしたいから	1.9%	2.2%	2.4%
人とふれあいたいから	3.4%	2.8%	3.2%
人の役に立ちたいから	7.3%	6.5%	10.1%
その他	-	-	0.2%

注) 10%以上の項目を網掛けで表示

(2) 住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア

住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿でのボランティア活動の希望理由をみると、順位はほぼ、前述の「(1) 大会期間中」の結果とほぼ同様に、「人の役に立ちたいから」の理由も、東京パラリンピックのみ1割を超えていた(図表22)。なお、ラグビーワールドカップでの活動を希望する理由をみると、「住むまちやその近隣で開催されるから」や「地域に貢献したいから」も1割を超えており、ラグビーワールドカップが全国12会場で開催されることが影響していると推察される。

図表 22 ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティア活動の実施希望理由

【住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア】

あなたがボランティアを行いたい理由をお答えください。(それぞれ1つずつ選択)

	ラグビーワールドカップ n=1,214	東京オリンピック n=2,080	東京パラリンピック n=1,754
スポーツが好きだから	19.9%	16.5%	14.5%
選手のプレーをそばで見たいから	15.5%	13.9%	12.9%
日本で開催されるから	21.6%	31.1%	30.8%
住むまちやその近隣で開催されるから	11.1%	8.5%	8.9%
地域に貢献したいから	10.0%	8.3%	8.4%
国際交流したいから	5.6%	6.8%	6.2%
語学を活かしたいから	2.5%	2.7%	2.6%
人とふれあいたいから	4.3%	3.7%	4.0%
人の役に立ちたいから	9.5%	8.4%	11.7%
その他	-	-	0.2%

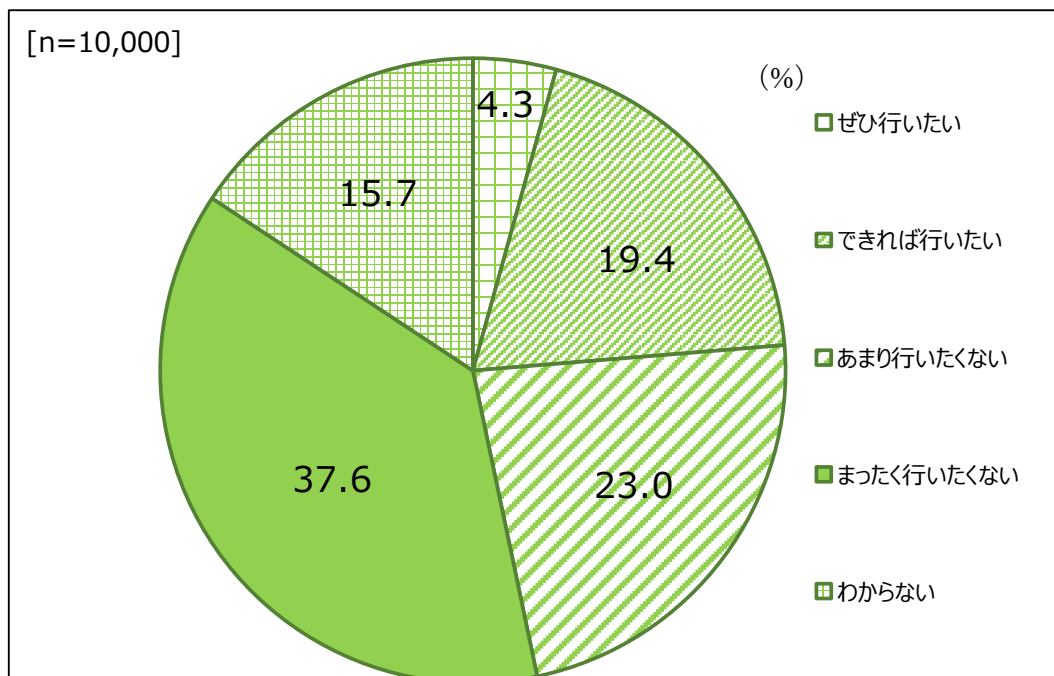
注) 10%以上の項目を網掛けで表示

9) スポーツボランティア実施希望状況

今後、スポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思うかをたずねたところ、「ぜひ行いたい」と回答した者が4.3%、「できれば行いたい」が19.4%で、「行いたい」と回答した者は「ぜひ行いたい」と「できれば行いたい」合わせて23.7%、回答者のうちの4人に1人の割合であった(図表23)。一方、「あまり行いたくない」23.0%、「まったく行いたくない」37.6%で、両者を合わせると「行いたくない」が60.6%と6割を占めていた。「わからない」と回答した者は15.7%であった。

図表 23 スポーツボランティア実施希望状況

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。(1つ選択)



性別にみると、男性のスポーツボランティア実施希望者（「行いたい」）が24.5%（「ぜひ行いたい」5.0%＋「できれば行いたい」19.5%）、女性では22.9%（「ぜひ行いたい」3.6%＋「できれば行いたい」19.3%）となっており、スポーツボランティア実施希望者は、女性よりも男性がわずかではあるが多くなっている（図表24）。性・年代別にみると、スポーツボランティア実施希望者は、男性では20代が最も多く、「ぜひ行いたい」10.7%、「できれば行いたい」19.7%を合わせて30.4%と、20代の男性の3割で実施を希望していることがわかる。次いで、30代の25.2%、60代の23.8%、50代の22.6%、40代の22.3%の順であった。女性でも20代の希望が最も多く、「ぜひ行いたい」5.0%、「できれば行いたい」21.1%を合わせて26.2%と、20代女性の4人に一人は活動を希望していることがわかった。次いで、60代が24.6%、30代の22.9%、40代21.0%、50代20.6%の順であった。一方、「まったく行いたくない」と回答した者の割合が、男性の30代、40代、50代と女性の30代で4割程度あったことも特記する。

図表24 スポーツボランティア実施希望状況（性・年代別）

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）

	ぜひ 行 い たい	で き れ ば 行 い たい	あ ま り 行 い た く な い	ま っ た く 行 い た く な い	わ か ら な い
全体(n=10,000)	4.3	19.4	23.0	37.6	15.7
男性全体(n=5,020)	5.0	19.5	22.5	38.5	14.5
男性20代(n=796)	10.7	19.7	21.0	32.9	15.7
男性30代(n=966)	5.2	20.0	19.2	40.4	15.3
男性40代(n=1,189)	4.3	18.0	21.5	40.3	15.9
男性50代(n=956)	3.7	18.9	22.6	39.7	15.1
男性60代(n=1,113)	2.7	21.1	27.3	37.8	11.1
女性全体(n=4,980)	3.6	19.3	23.5	36.8	16.8
女性20代(n=756)	5.0	21.2	20.1	36.6	17.1
女性30代(n=937)	4.8	18.1	19.3	39.6	18.1
女性40代(n=1,162)	3.6	17.4	22.0	38.5	18.5
女性50代(n=956)	2.4	18.2	26.2	34.3	18.9
女性60代(n=1,169)	2.7	21.9	28.4	35.0	12.1

10) スポーツボランティア活動経験別にみるスポーツボランティア実施希望状況

スポーツボランティアの実施希望を過去のスポーツボランティア活動の経験別にみると、「これまでに行ったことがある」ボランティア経験者が、「これまで行ったことはない」未経験者よりも実施希望者が多いことがわかる（図表 25）。特に、「過去 1 年間に行った」スポーツボランティア実施者は、「ぜひ行いたい」と答えた者が 31.8%と最も多く、「できれば行いたい」と回答した 47.0%と合わせると 8 割近くの者が希望している。一方、「これまで行ったことはない」と回答した未経験者の実施希望率は 16.4%と低く、逆に「まったく行いたくない」と回答した者が 4 割以上を占めていることがわかった。

図表 25 スポーツボランティア実施希望状況（スポーツボランティア活動経験別）

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）

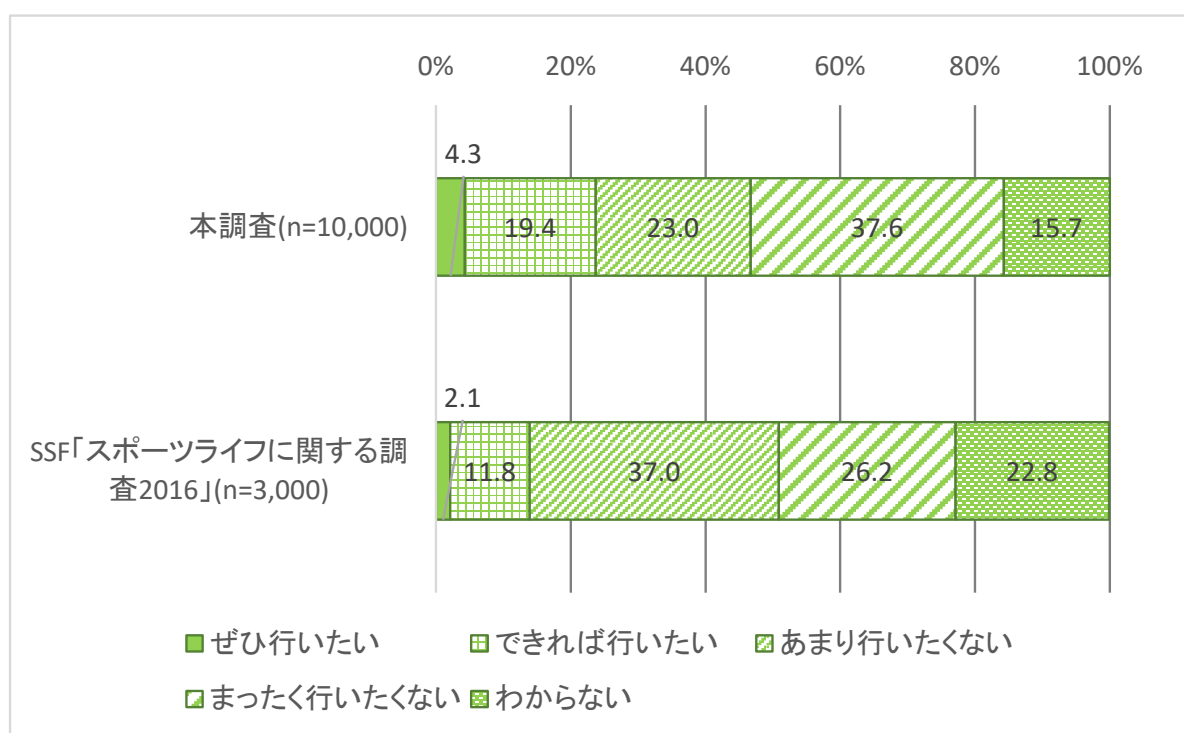
		(%)				
		ぜひ 行 い た い	で き れ ば 行 い た い	あ ま り 行 い た く な い	ま っ た く 行 い た く な い	わ か ら な い
全体 (n=10,000)		4.3	19.4	23.0	37.6	15.7
ス ポ ー ツ ボ ラ ン ティ ア 経 験	これまでに行ったことがある (n=1,471)	18.0	47.9	18.0	5.8	10.3
	過去1年間で行った(n=532)	31.8	47.0	11.3	3.6	6.4
	以前に行ったことがあるが、過去1 年間は行っていない(n=939)	10.2	48.5	21.8	7.0	12.5
	これまでに行ったことはない (n=8,529)	1.9	14.5	23.8	43.1	16.6

11) スポーツボランティア実施希望状況_他の調査との比較

18歳以上を対象とした笹川スポーツ財団の全国調査「スポーツライフに関する調査」(2016)(以降、「SSF 調査」)の結果と比較すると、スポーツボランティアの実施希望者は、本調査の23.7%（「ぜひ行いたい」4.3%+「できれば行いたい」19.4%）に対し、SSF調査では13.9%（「ぜひ行いたい」2.1%+「できれば行いたい」11.8%）であり、本調査が9.8ポイント高い結果となった（図表26）。

また、希望しない者も本調査の60.6%（「あまり行いたくない」23.0%+「まったく行いたくない」37.6%）に対し、SSF調査では63.2%（「あまり行いたくない」37.0%+「まったく行いたくない」26.2%）となっており、本調査が2.6ポイント低かった。この結果の違いは、本調査の実施年が2018年で、SSF調査より調査年が2年遅く、東京2020大会がより身近に感じられるようになったことや、調査方法の違い（本調査はインターネット調査、SSF調査は訪問留置法の質問紙調査）などが影響していると考えられる。

図表 26 スポーツボランティア実施希望状況_他の調査との比較

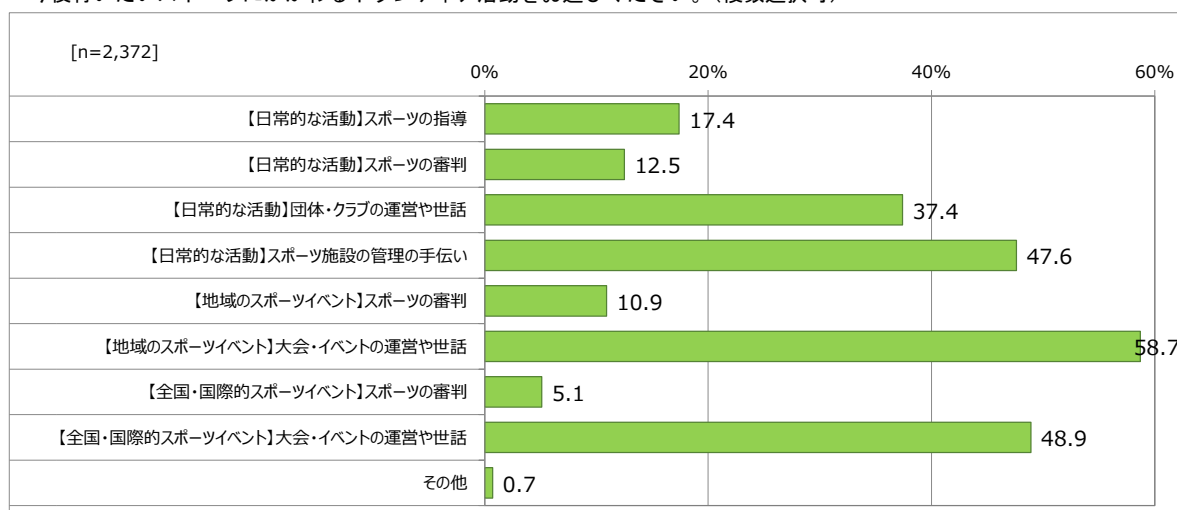


12) 今後希望するスポーツボランティアの活動内容

今後行いたいスポーツにかかわるボランティア活動の内容についてたずねたところ、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」が 58.7%と最も多く、次いで「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(48.9%)、「【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い」(47.6%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(37.4%)の順であった(図表 27)。地域のみならず、全国・国際的スポーツイベントへのボランティア実施希望者が多いことも、ラグビーワールドカップと東京 2020 大会に向けての期待の表れではないかと考えられる。

図表 27 今後希望するスポーツボランティアの活動内容

今後行いたいスポーツにかかわるボランティア活動をお選びください。(複数選択可)



性別にみると、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」が男性 56.5%、女性 61.1%と男女ともに最も割合が高い。次いで男性では「【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い」(43.9%)、「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(43.5%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(38.7%)の順となる(図表 28)。女性では、次いで「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(54.7%)、「【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い」(51.6%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(36.0%)の順であった。なお、男女の上位 3 位までの活動内容については、全て女性の希望率が男性を上回っていた。

性・年代別にみると、最も実施希望者の多かった「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」の割合は、若年層よりも男性の 60 代、女性の 50 代、60 代で 6 割を超えていた。また「【日常的な活動】スポーツの指導」では、男性の 20 代、30 代で 3 割を超えているものの、女性は 20 代、30 代でも 1 割程度と女性の希望者が少ない現状であることが確認できた。

図表 28 今後希望するスポーツボランティアの活動内容（性・年代別）

今後行いたいスポーツにかかわるボランティア活動をお選びください。（複数選択可）

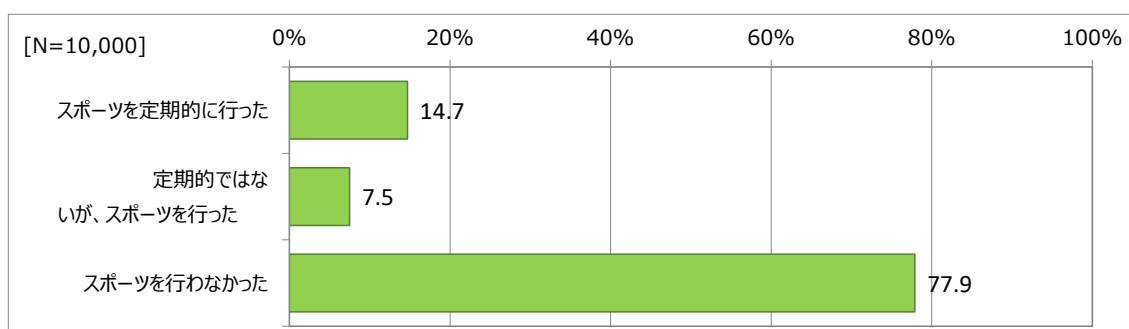
	の「日常的な活動」スポーツ指導	の「日常的な活動」審判	の「日常的な活動」団体・クラブの運営や世話	の「日常的な活動」施設の管理の手伝い	の「地域のスポーツイベント」審判	の「地域のスポーツイベント」運営や世話	の「全国・国際的スポーツイベント」審判	の「全国・国際的スポーツイベント」運営や世話	その他
全体(n=2,372)	17.4	12.5	37.4	47.6	10.9	58.7	5.1	48.9	0.7
男性全体(n=1,231)	26.7	18.7	38.7	43.9	16.9	56.5	7.2	43.5	0.6
男性20代(n=242)	38.4	27.7	38.0	38.0	26.4	46.3	12.4	40.1	0.8
男性30代(n=243)	33.3	21.4	36.6	46.1	15.6	48.1	8.6	39.9	—
男性40代(n=265)	25.3	18.1	41.5	46.4	16.2	58.5	8.7	45.3	0.4
男性50代(n=216)	19.4	15.7	33.3	45.4	15.7	59.3	4.6	44.0	0.5
男性60代(n=265)	17.4	10.9	42.6	43.4	10.9	69.4	1.9	47.9	1.1
女性全体(n=1,141)	7.4	5.9	36.0	51.6	4.4	61.1	2.8	54.7	0.8
女性20代(n=198)	11.6	9.6	37.9	55.6	7.6	55.6	5.1	53.5	0.5
女性30代(n=215)	10.2	13.0	35.3	50.7	7.9	55.3	5.1	55.3	0.5
女性40代(n=244)	6.1	4.1	36.1	52.9	2.5	59.0	2.5	51.2	0.8
女性50代(n=197)	5.6	2.5	34.5	46.7	3.0	65.0	0.5	56.3	0.5
女性60代(n=287)	4.5	1.7	36.2	51.9	2.1	68.3	1.4	56.8	1.4

13) スポーツボランティアとスポーツ実施、スポーツ観戦との関係

「ささえるスポーツ」といわれるスポーツボランティアが、「するスポーツ」（スポーツの実施）や「みるスポーツ」（スポーツの観戦）とどのように関連しているかを確認するため、過去1年間のスポーツ実施状況とスポーツ観戦状況をたずねた。過去1年間に「スポーツを定期的に行った」者は14.7%、「定期的ではないが、スポーツを行った」者は7.5%、「スポーツを行わなかった」者は77.9%であった。（図表29）。また、過去1年間に「直接会場で、定期的にスポーツを観戦した」者は7.3%「定期的ではないが、直接会場でスポーツを観戦した」者は9.6%、「直接スポーツの観戦をしなかった」者は83.1%であった（図表30）。

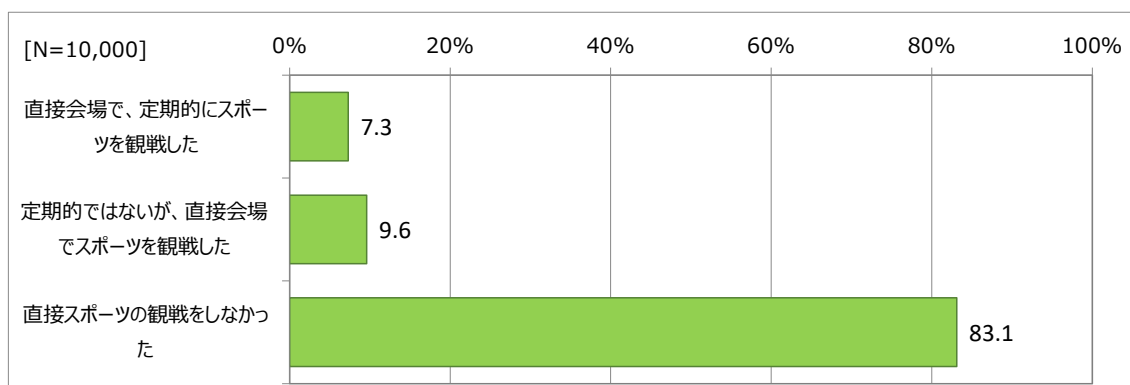
図表 29 スポーツとの関わり（スポーツ実施状況）

過去1年間のあなたとスポーツとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。



図表 30 スポーツとの関わり（スポーツ観戦状況）

過去1年間のあなたとスポーツとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。



続いて、過去 1 年間にスポーツボランティアを「行った」と回答した者（スポーツボランティア実施者。全体の 5.3%）に絞って、スポーツ実施状況別、スポーツ観戦状況別にみた。

スポーツ実施状況別にみると、「定期的にスポーツを行った」と回答した者のスポーツボランティア実施率は 16.5%であった（図表 31）。また、「定期的ではないが、スポーツを行った」者では 9.0%、「スポーツを行わなかった」者では 2.9%となっており、スポーツを実施する者ほどスポーツボランティア実施率が高くなっている。スポーツ観戦状況別にみると、「直接会場で、定期的にスポーツを観戦した」者のスポーツボランティア実施率は 21.6%、「定期的ではないが、直接会場でスポーツを観戦した」者では 9.7%、「直接スポーツの観戦をしなかった」者では 3.4%で、スポーツを観戦する者ほどスポーツボランティア実施率が高かった。これらの結果から、スポーツボランティア実施者は、スポーツ実施者よりスポーツ観戦者に多いことがわかる。

また、スポーツ実施状況とスポーツ観戦状況を合わせて、スポーツボランティア実施率をみると、「定期的にスポーツを行った」者で、同時に「直接会場で定期的にスポーツを観戦した」者のスポーツボランティア実施率は 33.4%（374 サンプル中 125 サンプル）と最も高かった。一方、「スポーツを行わなかった」者で、同時に「直接スポーツの観戦をしなかった」者のスポーツボランティア実施率は 2.7%と最も低かった。スポーツをする者、みる者ほど、スポーツボランティアする者が多いことが確認された。

図表 31 スポーツ実施状況・スポーツ観戦状況別にみるスポーツボランティア実施率
(%)

	直接会場で、定期的にスポーツを観戦した (n=732)	定期的ではないが、直接会場でスポーツを観戦した (n=961)	直接スポーツの観戦をしなかった (n=8,307)	小計
スポーツを定期的に行った (n=1,465)	33.4	18.4	8.3	16.5
定期的ではないが、スポーツを行った (n=747)	16.3	12.2	5.8	9.0
スポーツを行わなかった (n=7,788)	6.8	3.6	2.7	2.9
小計	21.6	9.7	3.4	5.3

14) 無自覚的スポーツボランティア実施状況

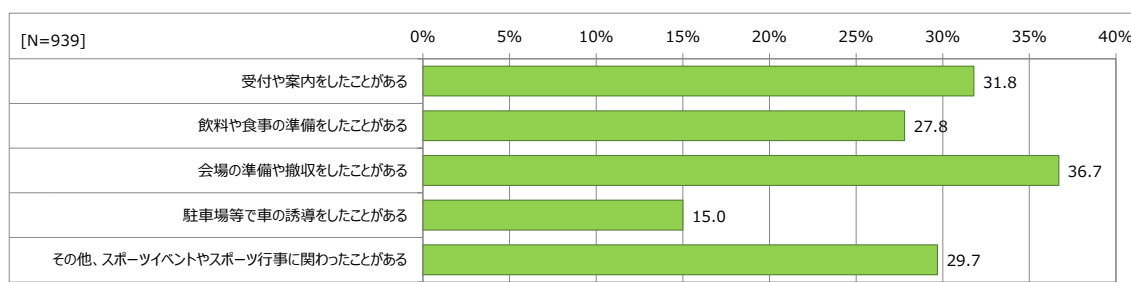
過去1年間、スポーツボランティアを「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」と回答した者（スポーツボランティア過去経験者）と、「これまでに行ったことはない」と回答した者（スポーツボランティア未経験者）に対し、「スポーツイベントやスポーツ行事」での受付や案内、飲料や食事の準備など、また、「本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等」での練習や大会等での送迎、活動場所の準備や手配などの活動の有無についてたずねた。図表 32,33 および図表 34,35 に示すこれらの活動は、スポーツボランティアとみなして問題のない活動といえる。本項では、これらが無償または実費程度の報酬で行った者について、スポーツボランティアを「過去1年間には行っていない」、「これまでに行ったことはない」と回答しながらも、それをボランティアと認識せずに実施した「無自覚的スポーツボランティア」と定義する。

(1) スポーツボランティア過去経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況

スポーツボランティア過去経験者について、スポーツイベントやスポーツ行事での活動状況をみると、「会場の準備や撤収をしたことがある」が36.7%で最も多く、以下、「受付や案内をしたことがある」(31.8%)、「飲料や食事の準備をしたことがある」(27.8%)の順となっている(図表32)。また、本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動状況では、「夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業をしたことがある」が24.8%と最も多く、以下「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のメンバーの送迎をしたことがある」(22.0%)、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のために飲料や弁当の準備をしたことがある」(19.9%)が続く(図表33)。全体では、スポーツボランティア過去経験者の7割がこれらのいずれかの活動を少なくともひとつは行っていた。

図表 32 スポーツボランティア過去経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況（スポーツイベントやスポーツ行事での活動）

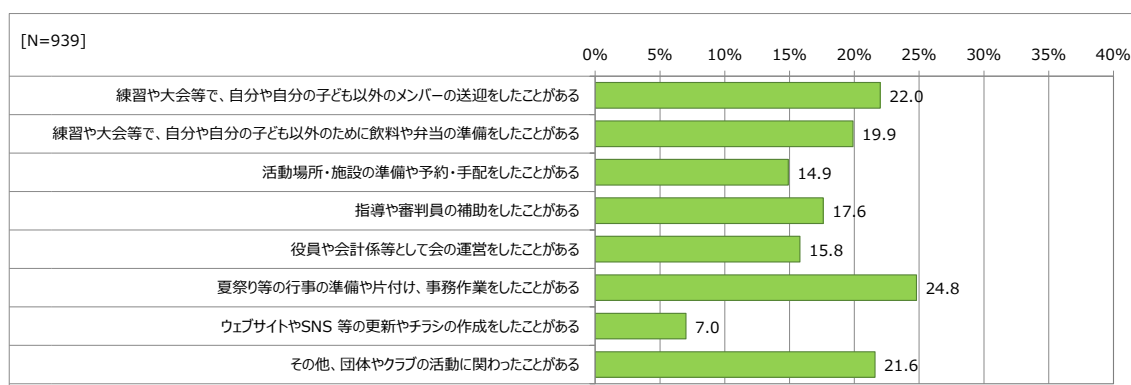
あなたは、過去1年間に、以下のような活動が無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。(それぞれ1つずつ選択)



注) スポーツボランティア過去経験者：過去1年間にスポーツボランティアを行っていないが、それ以前に行ったことがあると回答した者

図表 33 スポーツボランティア過去経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況（自身や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動）

あなたは、過去1年間に、以下のような活動が無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。(それぞれ1つずつ選択)



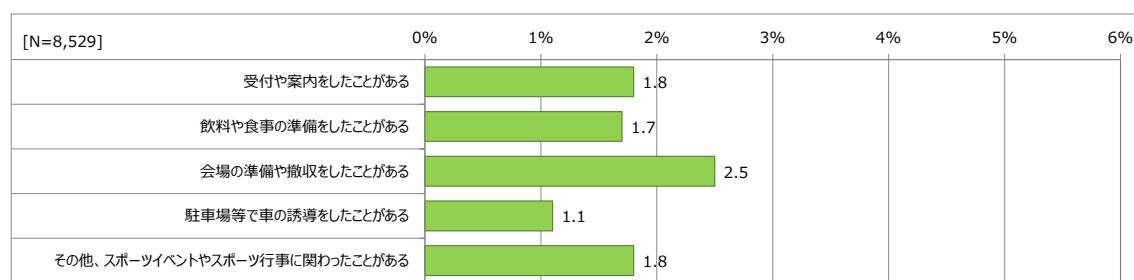
注) スポーツボランティア過去経験者：過去1年間にスポーツボランティアを行っていないが、それ以前に行ったことがあると回答した者

（２）スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況

スポーツボランティア未経験者について、スポーツイベントやスポーツ行事での活動状況をみると、「会場の準備や撤収をしたことがある」が2.5%で最も多く、以下、「受付や案内をしたことがある」（1.8%）、「飲料や食事の準備をしたことがある」（1.7%）の順となっている（図表34）。また、本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動状況では、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のメンバーの送迎をしたことがある」が5.5%と最も多く、以下「夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業をしたことがある」（5.0%）、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のために飲料や弁当の準備をしたことがある」（4.1%）が続く（図表35）。スポーツボランティア未経験者では、スポーツイベントやスポーツ行事での活動、または本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動を少なくともひとつ以上行っているのは13.2%であった。図表32～35をみると、スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティアの実施率は、スポーツボランティア経験者のそれを大きく下回ることがわかる。

**図表 34 スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況
（スポーツイベントやスポーツ行事での活動）**

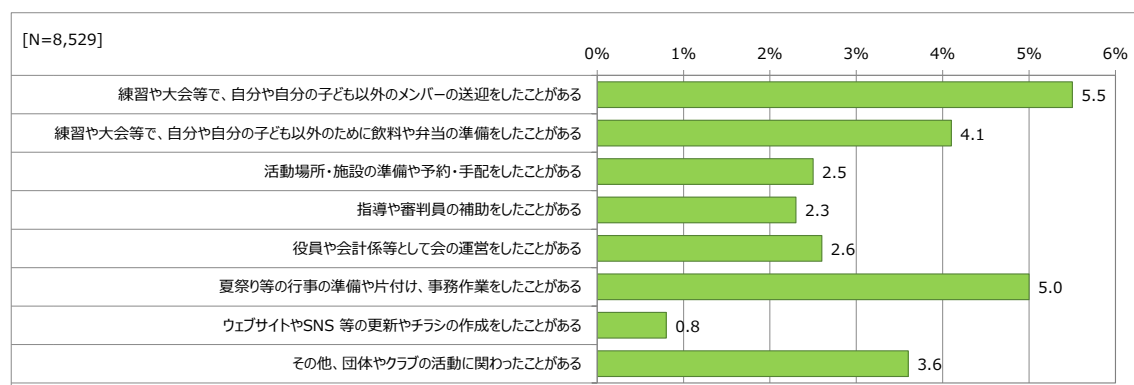
あなたは、過去1年間に、以下のような活動が無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。（それぞれ1つずつ選択）



注）スポーツボランティア未経験者：これまでにスポーツボランティアを行ったことがないと回答した者

**図表 35 スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況
（自身や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動）**

あなたは、過去1年間に、以下のような活動が無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。（それぞれ1つずつ選択）



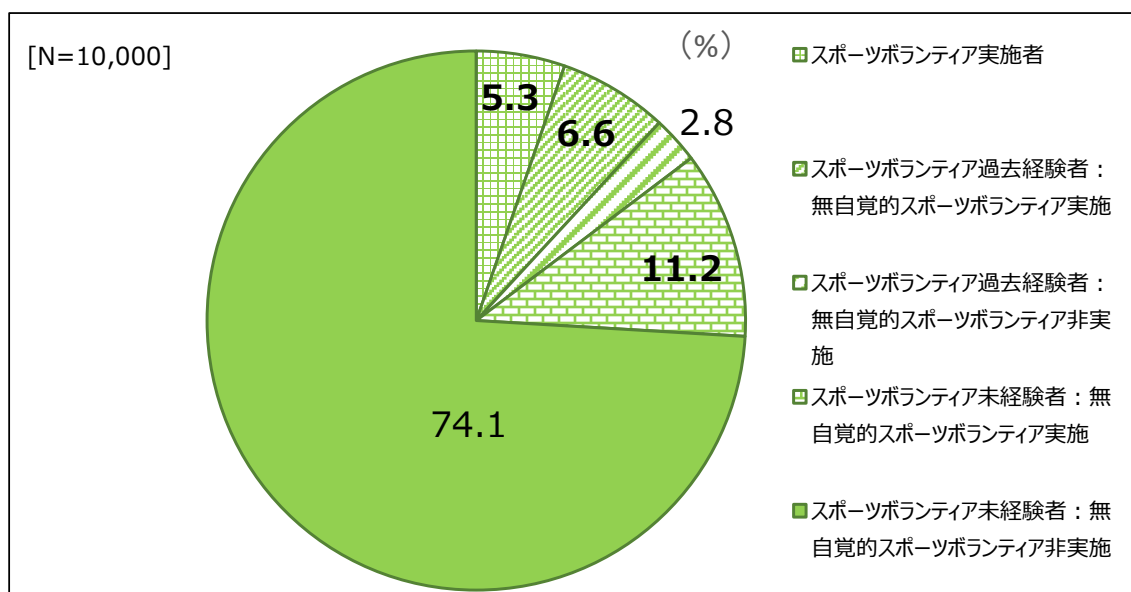
注）スポーツボランティア未経験者：これまでにスポーツボランティアを行ったことがないと回答した者

15) 無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティア実施状況

スポーツボランティアを「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」者（スポーツボランティア過去経験者）と「これまでに行ったことはない」者（スポーツボランティア未経験者）を、無自覚的スポーツボランティア実施の有無別にそれぞれ2つに分け、スポーツボランティアの実施状況をより詳細にみた（図表36）。

無自覚的にスポーツボランティアを実施していたスポーツボランティア過去経験者は全体の6.6%、ボランティア未経験者では11.2%であった。これら無自覚ボランティアとスポーツボランティア実施者（5.3%）を合わせると、過去1年間に何らかのスポーツボランティアを実施した者は23.1%となる。無自覚的スポーツボランティア実施者の存在は、多くの人が、スポーツをささえる様々な活動を、スポーツボランティアとしてイメージできていないことを示唆している。

図表 36 無自覚的ボランティアを含む過去1年間のスポーツボランティア実施状況



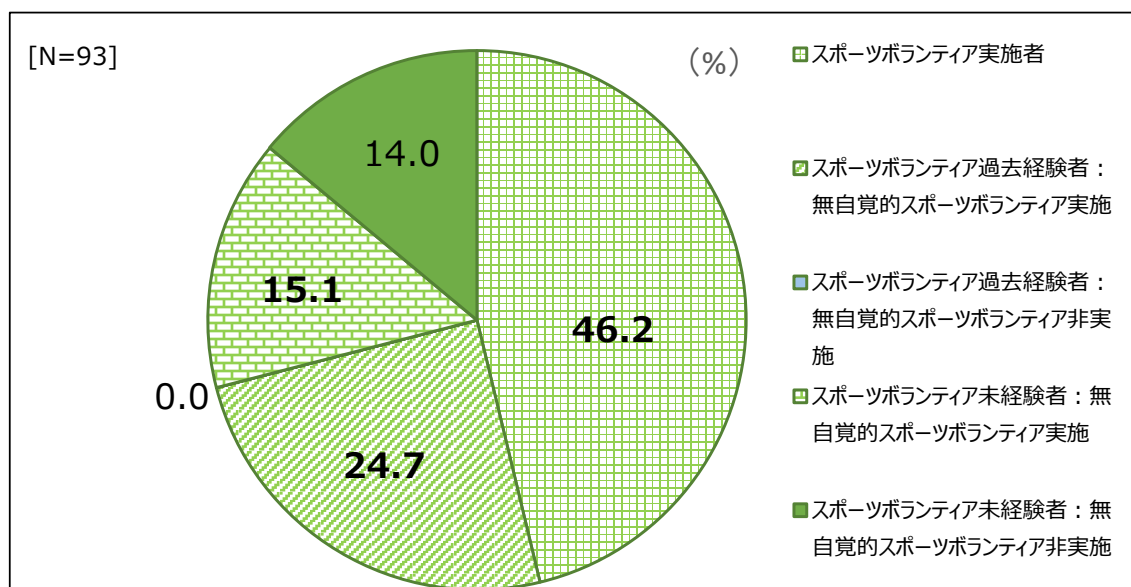
16) スポーツ組織所属者の無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティア実施状況

体育協会および協会に加盟する競技団体やスポーツ少年団への所属状況についてたずね、スポーツボランティアとの関連をみた。なお、スポーツ少年団は、指導者や所属する子どもの保護者としての関わりを想定している。「体育協会（加盟競技団体含む）」「スポーツ少年団」に所属している回答者は、それぞれ、93、117 と全体の 1%程度であった。

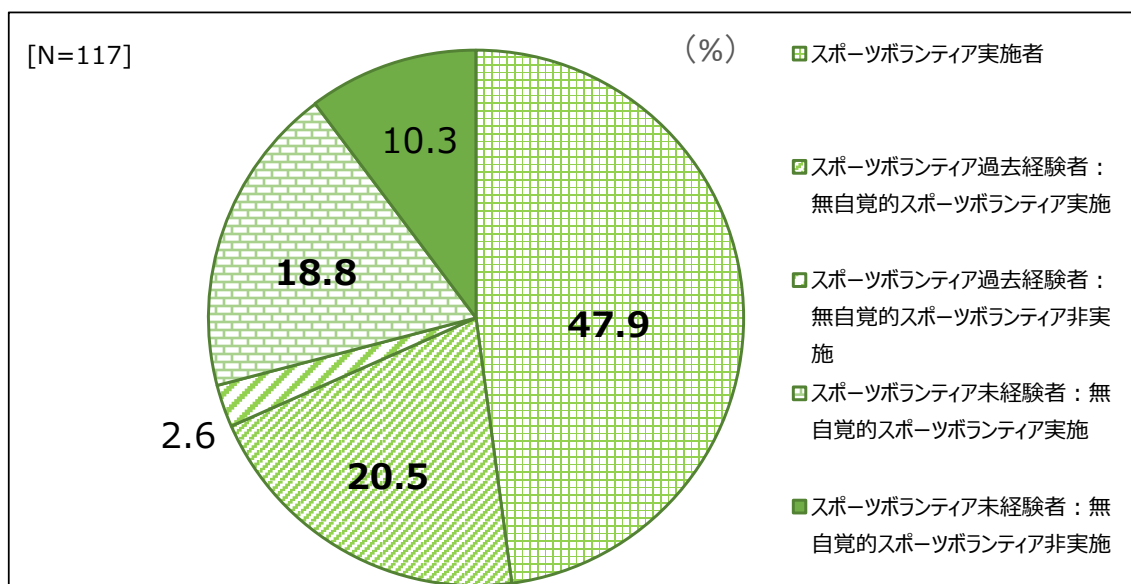
過去 1 年間にスポーツボランティアを「行った」と回答したスポーツボランティア実施者は、体育協会所属が 46.2%、スポーツ少年団所属が 47.9%で、全体（5.3%）の約 9 倍であった（図表 37,38）。

また、スポーツボランティアを「以前に行ったことがあるが、過去 1 年間は行っていない」者（スポーツボランティア経験者）と「これまでに行ったことはない」者（スポーツボランティア未経験者）に占める無自覚的スポーツボランティア実施者の割合をみても、体育協会所属、スポーツ少年団所属のいずれも全体（経験者 6.6%、未経験者 11.2%）を上回り、無自覚的ボランティアを含めた過去 1 年間のスポーツボランティア実施率は、体育協会所属が 86.0%、スポーツ少年団所属が 87.2%と全体（23.1%）の約 3.7 倍であった。体育協会やスポーツ少年団など、地域のスポーツに関わる組織に所属する人のほとんどが、何らかのスポーツボランティア活動を行っていることが確認された。

図表 37 体育協会（加盟競技団体含む）に所属する者の無自覚的ボランティアを含む過去 1 年間のスポーツボランティア実施状況



図表 38 スポーツ少年団に所属する者の無自覚的ボランティアを含む過去 1 年間の
スポーツボランティア実施状況



3. まとめと考察

■ 主な調査結果

今回の調査では、過去 1 年間のスポーツボランティア実施率に加えて、それ以前のスポーツボランティア実施経験や、スポーツ以外のボランティアの実施状況を明らかにした。スポーツを含むすべてのボランティア実施率 21.9%に対する、スポーツボランティア実施率 5.3%という値は、スポーツのボランティア活動がボランティア活動全体においても大きな割合を占めることを改めて示している（図表 7）。

調査結果で特に重要なポイントは、

スポーツボランティア実施者の多くは、スポーツ以外のボランティア活動にも従事していることである。過去 1 年間にスポーツボランティアを実施した者の約 75%は、スポーツ以外のボランティア活動も行っていた（図表 7）。また、過去 1 年間の実施者を含めたこれまでのボランティア実施経験者でみても、8 割以上が「スポーツ」と「スポーツ以外」のボランティア両方を実施または経験していることがわかった（図表 9）。スポーツボランティア実施者が行っているスポーツ以外のボランティアの活動分野で最も多いのは「子どもを対象とした活動」で 37.4%、二番目に多いのは「まちづくりのための活動」の 36.7%であった。地域における青少年育成のプログラムとしてスポーツを行うことや、まちづくりの事業の一環でスポーツイベントを開催する例など、他の分野のボランティア活動とスポーツとの親和性の高さが、こうした「掛け持ち」の多さにつながっていると考えられる。また、「子どもを対象とした活動」を行っているスポーツボランティア実施者の割合を性・年代別にみると、30 代女性が 52.9%、40 代女性が 54.3%と突出して高い。子育て世代が保護者の立場で、地域のスポーツ活動や学校行事の手伝い、PTA 活動などに従事している状況が読み取れる。

また、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の関係については、

スポーツの観戦頻度が高い者、スポーツの実施頻度が高い者ほど、スポーツボランティア実施率が高いことが示された。「直接会場で、定期的にスポーツを観戦した」者のスポーツボランティア実施率 21.6%に対して、「スポーツを定期的に行った」者の実施率は 16.5%であり、スポーツボランティアは、スポーツ実施よりスポーツ観戦との関連性が強いことをうかがわせる結果となった（図表 31）。一方で、スポーツを行わず、直接スポーツ観戦もしなかった者のスポーツボランティア実施率は 2.7%と全体（5.3%）の半分程度と少なかったが、スポーツを「する」「みる」と関わりが無くても、ささえる活動（ボランティア）を行う者が一定数存在することに注目すべきである。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」（2012）によると、過去 1 年間にスポーツを行わず、さらに観戦もしなかった者のスポーツボランティア実施率は 2.3%であり、今回の調査結果とほぼ同様の値となっている。

■ ボランティアを大規模国際大会のレガシーとするために

わが国では、2019 年から「ラグビーワールドカップ 2019」（2019 年 9～11 月）、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」（2020 年 7～8 月）「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」（2021 年 5 月）と、大規模国際スポーツ大会が 3 年続けて開催される。この 3 大会やこれに関わる事前合宿を含めて、この期間は全国各地で過去に類を見ない規模でスポーツボランティアが活動することが見込まれる。そして、これらのボランティアが、その後スポーツやその他の分野でボランティアとして継続的に活躍することが、大規模国際大会の「レガシー」になると期待されている。上記を踏まえて、ここからは、スポーツイベントの運営ボランティアに焦点を当てて考察する。

スポーツイベントの運営ボランティアは、スポーツボランティアやその他のボランティア活動の「入口」となっているのだろうか。「ボランティアをするきっかけとなった活動」をスポーツボランティアの活動内容別にみると、「【日常的な活動】スポーツの指導」の 43.2% に対し、「【全国・国際的イベント】大会・イベントの運営や世話」は 33.1%、「【地域のイベント】大会・イベントの運営や世話」は 22.9%となっている（図表 11）。また、スポーツ以外のボランティアの活動分野の「子どもを対象とした活動」（51.1%）、「健康や医療サービスに関係した活動」（46.3%）と比べても低い。この結果は、スポーツイベント運営のボランティアが、その後のボランティア活動のきっかけとなっている者は多くないことを示している。スポーツボランティアの内容別実施率で、「【地域のイベント】大会・イベントの運営や世話」（39.3%）よりも低い「【日常的な活動】スポーツの指導」（29.3%）の方が、より多くの人にとって、ボランティア活動の契機となっていることがわかる（図表 3）。

調査結果からは、国際スポーツイベントのボランティアをきっかけに、その後継続的にボランティアをする者が増えることへの期待は大きくないと読み取ることもできる。しかし、以下の点を考慮した上で結果を解釈する必要がある。

- 1) ラグビーワールドカップとオリンピック・パラリンピックは、本調査の分類「全国・国際的スポーツイベント」に含まれるイベントの中で突出して大きな規模であり、全国大会のボランティアと同じカテゴリーに含めて論じるのには無理がある。
- 2) 多くのスポーツイベントでは、大会をささえるボランティアの中に、主催者が運営人材の不足を補うために、関係者に依頼して確保された、いわゆる「動員型」のボランティアが含まれており、調査結果はこうした自発的でないボランティアの意識も反映している。一方、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックの大会ボランティアは参加希望者が多く、自発的なボランティアが占める割合が高くなるが見込まれる。

大規模スポーツイベントのボランティアを大会のレガシーとして残すためには、大会組織委員会、開催地自治体および競技団体関係者が、大会後を想定した上で、ボランティアの運営全般の制度設計をする必要があると考える。以下にフェーズごとに留意すべき点につ

いて示す。

1) ボランティアの選考

経験者による安定した大会運営と新たなボランティアの開拓の両面を考慮し、ボランティア経験者と初心者の割合を定める。将来のスポーツボランティア確保のため、若年層を含めた年代別の割合についても検討する。

2) ボランティアの養成・教育

ボランティアの活躍が大会に与えるインパクトの大きさや、ボランティアの社会的意義を参加者に正しく理解してもらう。

3) ボランティアの配置

ボランティア経験者が初心者をサポートする場や、世代や国籍、障害の有無を超えて多様な人が協働する場を創出することを考えて配置する。

4) 有給スタッフや業務委託先への啓発

ボランティアが単なる「無償の労働力」ではないことや、自発的に参加したボランティアの積極性が大会の価値向上に貢献することを、すべての有給スタッフや業務委託先のスタッフに理解してもらう。

5) 活動期間中のコミュニケーション

日々の活動の中で、ボランティアに感謝の言葉をかける。また、運営の改善につながるボランティアからの提案を積極的に受け付ける。

6) 活動終了後の機会提供

大会終了後、意欲があるボランティアに活動機会を提供する体制を整備する。

①ボランティアの参加意欲を高めるための各種大会の運営体制の見直し

②ボランティアの登録・育成制度の整備

スポーツボランティアを量的にみると、活動の多くはスポーツの指導や団体・クラブの運営など、地域に根差した日常的な活動であり、短期的・期間限定的なイベント運営のボランティアはスポーツボランティアのごく一部である。しかしながら、国際大会・全国大会から地域の小規模な大会に至るまで、一度にまとまった運営スタッフを必要とするスポーツイベントが、ボランティア発掘の有効な場となることは間違いない。スポーツ行政や体育協会、競技団体などの関係者には、これからの3年間をボランティア人材確保の好機ととらえ、これまで競技と関わりの無かった人の中から、ボランティアを希望する人を積極的に活用し、彼らがリピーターとなってくれるよう、大会運営の在り方を見直すことを期待したい。動員型ボランティアを減らし、自発的なボランティアを増やすことは、「前年と同じように」大会を運営する際の負担となるが、大会の質の向上と、主催団体の成長につながるはずである。ボランティアが継続して参加したいと思える大会が全国各地に増えることが、大規模国際大会に参加し、スポーツボランティア活動の意欲が高まった人々の「受け皿」となるだろう。

4. 参考文献

- 金子史弥（2017） ロンドン 2012 オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア政策．現代スポーツ評論，37：101-112．創文企画
- 桜井政成（2007） ボランティアマネジメントー自発的行為の組織化戦略ー．ミネルヴァ書房
- 笹川スポーツ財団（2017） スポーツ白書 2017ースポーツによるソーシャルイノベーションー．
- 笹川スポーツ財団（2012） スポーツライフ・データ 2012．
- 笹川スポーツ財団（2014） スポーツライフ・データ 2014．
- 笹川スポーツ財団（2016） スポーツライフ・データ 2016．
- 総務省統計局（2018） 平成 28 年 社会生活基本調査報告．第 2 巻 全国・地域 生活行動編．日本統計協会
- 東京都生活文化局（2018） 都民等のボランティア活動等に関する実態調査．
- 東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（2016） 東京 2020 大会に向けたボランティア戦略．
- 二宮雅也（2017） スポーツボランティアとは？ ースポーツの「裏方」を楽しむー．現代スポーツ評論，37：44-55．創文企画
- 日本スポーツボランティア学会（2008） スポーツボランティア・ハンドブック．明和出版
- 文部科学省（2015） 「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究（スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究）」報告書．笹川スポーツ財団
- 文部科学省（2015） 「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究（スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究）」報告書．笹川スポーツ財団
- 山口泰雄（2004） スポーツ・ボランティアへの招待ー新しいスポーツ文化の可能性ー．世界思想社

スポーツボランティアに関する調査 2018 報告書

2018 年 12 月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3F

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。

本事業は、ボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。